

中間案説明会 および 意見募集のまとめ

地区説明会

1 出席者数:延べ172名

神之木	11名	新子安	21名
片倉三枚	13名	若竹苑	21名
反町	14名	菅田	6名
エコライフ	21名	白幡	17名
六角橋	16名	三ツ沢	32名
		合計(延べ)	172名

2 主な意見

- ・行政で町内会加入をどう考えどう扱うのか
- ・障がい者のプライバシーの問題(名簿が入手できず把握できない)
- ・行政の市民活動支援のあり方(立ち上げだけで打ち切るので活動が続けられない)
- ・「福祉は行政が行なうもの」という意識の人が多く、自分でもやってみようという気持ちにさせる施策を打たないと計画倒れになる。
- ・世相、治安の悪化がある。安心安全を強調し、明るい公園・街灯設置など町内会等の組織が何とかしようという気持ちになる内容を盛り込んで。
- ・「協働」を強調した方が良い
- ・あなたは何かができますか?という問いかけにすると考えるのでは
- ・町会によっては町会未加入者に広報を配布していない。
- ・老人会に出てこない人は老人会加入者の67%。家から出られない実情。これない人の対策が必要。
- ・町内会の人材育成(名誉職ではなく実働できる人)がネックでは。
- ・ケアプラザでボランティアができることを知らなかった(中学生)
- ・公園の管理をしているが、中学生がゴミ拾いをしてくれるようになった。お互い注意し会えば少しずつ良くなる。根気よくやっていけば地域もつながっていく。
- ・計画によって地域の人がいろいろな意見を出せたのはとてもよかった。
- ・地域の基盤は町内会だけではない。市民的コミュニティ・横断的なコミュニティ(NPO)などの力も活かしたい。
- ・ボランティアとはプロの集団であると認識される傾向があるので気をつけたい。
- ・一人一人の力が2,3・・・と増えていくことが大切。
- ・地域の中で広報紙を作っている。
- ・コミュニティハウスが近くにない。新設できないか。
- ・かめっ子が地域の中の人のかちコミで広がるようになりたい。(やる側のPRだけでなく参加した人のくちコミ)
- ・月に4回のかめっ子でも出会える機会はある。場所ありきではない。

- ・お年寄りと交流したくてもどこで何をしているのかわかりにくい。地域内の情報が得られない(高校生)
- ・誰もが・とうたうわりに行政の事業は年齢で対象を切るのでやりにくい。
- ・G30は地域小単位で説明をして欲しい。
- ・道路や施設等の整備について、単に「できない」では済ませないで欲しい。いつまでに何をという期限を示して欲しい。
- ・町内会館の土地に市の土地を貸して欲しい。
- ・学校近くの道路の拡張をして欲しい
- ・地域によって計画が行なえないところもある。今年は障害の年、高齢の年と絞って、メリハリのある展開をしないと地域も反応しにくい。
- ・計画は誰におろすのか。自治会はもう目一杯である
- ・要望に対する回答をして欲しい。
- ・他の17区の意見は反映させないのか。
- ・高齢者は家から出ない。施設を作ればというのは幻想。訪ねることが大切。
- ・配るものが無くなり高齢者の把握ができなくなった。
- ・かめっ子と保育園の交流、小学校との交流を進めている(A保育園)
- ・バス、地区センターでの相談窓口など、要望に対して具体的な取り組みを盛り込んで欲しい。
- ・計画は行動を伴って欲しい。でないと行政不信につながる。
- ・セクショナリズムを廃して迅速な対応をして欲しい。
- ・民生委員の推薦をしても任命されないというのはどういうことか。
- ・地区懇談会から時間がたちすぎていて関心を失った。
- ・ボランティアは地域の中ではしない。その方が相手に素直に受け入れられ活動しやすい。
- ・ボランティア確保のために行政でもボランティア講座など行なうべき。
- ・地域に出かけていかないと、待っていては人は集まらない。
- ・計画は5年を待たずに評価して、ふさわしくないものはすぐにやめていくことが必要。
- ・住民によるパトロールをしている(2地区)
- ・町会長研修会や区民会議の福祉部会等で広めた方が良い
- ・周知徹底が大事。意見を吸い上げたらそれに答えることがたいせつ。意見は聞いても答えないということが何十年と繰り返されている。
- ・さばさばした付き合いをしたい人60%という結果を乗り越える計画にして欲しい。
- ・地域の後継者が育たないのは、現役に役所の仕事が多すぎて手が回らないからでもある。
- ・高齢者の問題、子どもの犯罪防止等町会の会員が眼を向けてくれる福祉の課題に具体的に活動する姿を見せていくことが町内会の役割になるのでは。
- ・教育委員会が頑なで、学校施設も開放委員会を利用してくれというだけ。なぜ空き教室を貸さないか聞いても改善策が無い。市長の方針と違う。
- ・有償化しないと地域の役員もボランティアも出てこないのでは。
- ・学校が声をかけてくれたら子ども達も地域の祭りに出てきた。学校と区長の連携を望む。
- ・防犯が関心事の1位になっている。この計画の中でも取り上げて欲しい。
- ・マナー、モラル、防犯、幼児期の教育が大切。
- ・登下校時の挨拶をしているが、気持ちの良い返事が返ってくる。皆が取り組んでくれれば良いのに、実現が難しい。
- ・ケアプラザができない分、拠点の確保として学校を使いたい。区からも学校へ働きかけて欲しい。廃校にするなら給食設備で高齢者会食など有効に使える。
- ・地区懇談会から「チョボラ」が始まった。

- ・予算も何も無いところで誰が先頭に立ってやっていくのが問題。
- ・娘が急に入院し84歳の母が家に残った。1週間、近所で誰が言うとも無くおかずを運んだりした。隣近所が大切。
- ・地域で防犯活動に取り組み、そこから小さな趣味の会がいくつかできた。地域に活動への小さな目ができている。
- ・団地でバリアフリーマップを作っている。ハードで解決できないときはわき道を確保するとか、清掃も大切。この取り組みを行政と協働で広めたい。

中間案はがき

回収数18、手紙1、文書1

主な意見

・地域活動に参加したことが無いが、最近参加してみたいと思うようになりました。個別目標の17,18に特に関心があります。高齢者時代に向けて、高齢者の私にとっても充実すれば良いと思います。現在このようなサービスはどこにもあまり無いと思います。

・引ったくり、空き巣、子どもが巻き込まれる等事件が多発しているので、犯人像がわかる場合は即、地域の掲示板に貼りだしたり回覧板を回すなど連絡を密にする必要があると思います。また、腕章をつけるなどして防犯対策をしていることをアピールするだけでも違うので、そういう組織を作りたいと思います。

・せせらぎ緑道、犬の糞が一杯です。パトロールをするボランティアなり仕事なり、取り締まれないでしょうか。水路、街路樹の掃除をしてくれ、葉を拾う業者さんは糞は拾いません。税金をかけているのに、衛生上いかなものか。

・町内会の青年部ですが、毎年6月の祭礼時に神輿の保存会を作って活動している。障害者の活動施設と一緒に楽しめる祭礼作りをしたいと思っているのですが誰に相談していいのかわかりません。(反町男性)

・子どもがいない30代夫婦です。町内会に入ろうにも誰に声をかけたらよいのか…。大家さんに聞いてみます。近所に若い単身世帯が多く、防犯や地域のお店情報等交換し合っ顔の見える関係ができればいいなと思っています。自分でもアパートの周囲の掃除、近所の人への挨拶を心がけています。基本目標の3と5ってむずかしいですね。自分にできることはなんだろうと考えてしまいます。

・高齢化を迎える地域社会。医療及び介護における歯科医師会との連携を保ってもらいたい。

・東京から転入した。東京では高齢者同士の持ち寄りのお茶のみ交流会やハイキングの会などがたくさんあったが、マンションで交際が全く無く、地域活動のこともわからず、がっかりしている。(68歳)

・独居老人ですが町会で温かい心くばりがほしい。現在あまり感じられないので、甘えでしょうか。(86歳)

・視覚障害があります。就労に苦労しています。高収入を望むものではありません。働く機会を増やして欲しい。そんな私達の声を反映させる場所はあるのでしょうか？日ごろいろいろな形で私達に温かい手を差し伸べてくださる皆様に私も何かしてあげたい、私にも何かできることがあるとおもっています。私達視覚障害者に希望の光を与えてください。障害者の障害部位の特性を理解した決め細やかな計画を作ってください。

・子どもが障害児なのでサービスを受ける側だが「抱え込まない」ことを心がけている。考えられるサービスはできるだけ利用し、「障害のある子」と接する機会をいろんな人に持ってもらい、その経験をもとに他の障害のある子の支援もしてもらえよう願っている。障害児の放課後のタイムケアに力を入れて欲しい。送迎つきのデイサービスを利用しているが南区で、遠すぎる。是非神奈川区で始めて欲しい。

・子供向けガイドヘルプ有償ボランティア組織の代表をしている。将来的にはNPO法人化して宿泊預かりや子供向けのミニサービスをしたいとおもっている。ほしい情報がいつでも簡単に入手できるようなシステムがあればいいと思います。

・住みやすいです。

・福祉マップができれば、利用される方、町の方々も今地域でどのようなささえあいが行なわれているかわかりやすいとおもいます。(居宅介護事業所)

・各地域には核となる人材とその育成が必要である

・この計画を実行に移すには地域の福祉の現状を的確に把握し、地域の特性に合わせた配慮が必要である

・この計画は、各住民に対し徹底的にPR周知を行い、理解してもらうようにすることが必要である。